

# 施策評価シート

## 基本目標

### 6 市民生活を支える 機能性の高い快適なまち

## 1 施策名

### 6-(1) 機能性の高い都市空間の形成

## 2 施策の概要

### I きめ細かな土地利用の推進

樹林地などの自然的土地利用と住宅地などの都市的土地利用の調和・共生を図りながら、少子・超高齢社会の暮らしを支えるため、コンパクトな市街地を形成する集約型都市構造の実現に向け、土地の有効活用や高度利用など、社会経済環境の変化に対応した、快適で利便性の高い、きめ細かな土地利用を推進します。

### II 個性と魅力ある都市空間の創出

中心市街地内の回遊性の向上を図るとともに、周辺市街地の面的整備など生活環境の整備を行い、にぎわいとゆとりある都市空間を創出し、個性と魅力あるまちづくりを推進します。

### III 豊かで多様なウォーターフロントの形成

豊かで多様なウォーターフロントの形成を目指して、鹿児島港港湾計画に位置づけられた各港区の整備計画及び利用計画を促進します。

### IV 魅力ある都市景観の形成

自然環境の保全や景観に配慮した都市基盤整備に取り組むとともに、景観形成に関するルールに基づき、市民、事業者、行政の協働による良好な景観形成を推進します。

## 3 目標指標

### (1) 実感指標

指標名	策定時の現況	26年度:実績(A)	26年度:目標(B)	達成率(A/B)	28年度:目標(C)	達成率(A/C)	主な関係局
①「地域に必要な都市機能が整備されている」と感じる市民の割合	62.1%	65.2%	63.2%	103.2%	64.0%	101.9%	建設局

### (2) 主な指標

指標名	策定時の現況	26年度:実績(A)	26年度:目標(B)	達成率(A/B)	28年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①地区計画の決定数	20か所	24か所	21か所	114.3%	22か所	109.1%	建設局
②景観形成重点地区の指定数	0か所	2か所	2か所	100.0%	3か所	66.7%	建設局

## 4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	26年度		27年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額
I きめ細かな土地利用の推進	6	189,176	7	151,209
II 個性と魅力ある都市空間の創出	13	16,092,660	13	16,024,256
III 豊かで多様なウォーターフロントの形成	6	1,288,975	6	1,396,683
IV 魅力ある都市景観の形成	7	320,338	7	186,235
計	32	17,891,149	33	17,758,383

## 5 関係局による分析

## ■分析の類型（施策の達成度）

A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない

## 建設局（きめ細かな土地利用の推進、個性と魅力ある都市空間の創出、豊かで多様なウォーターフロントの形成、魅力ある都市景観の形成）

施策の達成度	分析	理由
A		<p>(ア)きめ細かな土地利用の推進については、主な指標の「①地区計画の決定数」が目標を達成したほか、都市計画見直しでは区域区分や土地利用ガイドプランに基づく施策の一つである団地核における用途地域の変更等を行った。また、地籍調査事業や市道路敷登記整備事業などについても年間の目標値を達成しており、順調に進捗している。【関連事業1-1、1-2-1～2】</p> <p>(イ)個性と魅力ある都市空間の創出については、中心市街地や谷山地区などにおいて、にぎわいとゆとりのある都市空間を創出するため、市街地再開発事業や土地区画整理事業などに取り組んでいる。【関連事業2】</p> <p>(ウ)豊かで多様なウォーターフロントの形成については、国及び港湾管理者である県において、鹿児島港港湾計画に基づき各港区の整備が進められている。また、かごしま水族館の利用促進については、魅力あるイベントの創出などにより、年度で若干の増減はあるものの、年間60万人を超える利用者を確保するなど、市民の余暇の活用や本市の観光振興に貢献している。【関連事業3】</p> <p>(エ)魅力ある都市景観の形成については、地域住民等との協働により、景観形成重点地区として、八重の棚田地区及び磯地区の2地区を指定したことで、主な指標の「②景観形成重点地区の指定数」は26年度の目標を達成した。また、都市景観の向上を図るため、ブルースカイ計画事業や公共掲示板等のリニューアルを行った。【関連事業4-1-1、4-2-1・3】</p>

考え方	
今後の方向性	<p>(ア)きめ細かな土地利用の推進については、引き続き地区計画や地籍調査事業を行うほか、コンパクトなまちづくりを進めるため、立地適正化計画の策定などに取り組む。【関連事業1-1-1・3、1-2】</p> <p>(イ)個性と魅力ある都市空間の創出については、引き続き市街地再開発事業や土地区画整理事業などに取り組むほか、吉野第二地区土地区画整理事業の新規事業化や田上小学校周辺の面的整備のあり方について検討を続けていく。【関連事業2】</p> <p>(ウ)豊かで多様なウォーターフロントの形成については、引き続き国及び港湾管理者である県と連携を図りながら鹿児島港港湾計画に基づく整備を促進する。また、かごしま水族館については、魅力あるイベント創出や広報の充実等により入館者増対策に努める。【関連事業3】</p> <p>(エ)魅力ある都市景観の形成については、景観形成重点地区の指定に向け、今後も地域住民等と協働して取り組むほか、景観に配慮した都市基盤整備を継続していく。【関連事業4】</p>

## 6 行政評価市民委員会における評価・意見

### 【施策の達成度に対する評価】

(ア) きめ細かな土地利用の推進については、主な指標(地区計画の決定数)の達成度が目標値を上回っており、また、都市計画の見直しでは、用途地域の変更も行っていることから、評価できる。

(イ) 個性と魅力ある都市空間の創出については、中心市街地や谷山地区で市街地再開発事業や土地区画整理事業に取り組んでいる。

(ウ) 豊かで多様なウォーターフロントの形成については、国や県において鹿児島港港湾計画に基づき、各港区の整備が進められている。

(エ) 魅力ある都市景観の形成については、主な指標(景観形成重点地区の指定数)の達成度が目標を達成していることから、評価できるが、屋外広告物の問題や桜島の景観確保など、十分とはいえない項目も多いのではないかと。

(オ) 実感指標の「地域に必要な都市機能が整備されている」と感じる市民の割合が目標値を達成していることから、引き続き、施策を続けていくべきである。

### 【今後の方向性に対する意見】

(ア) 土地区画整理事業や再開発事業など土地利用の推進に取り組んでいただきたいが、防災・安全の視点など市民のニーズを的確に捉える必要がある。

(イ) 経済や環境とも関連があることから、他局とも連携を図り、公共交通インフラや各種ソフト施策を一体的に作り上げる必要がある。

(ウ) 空き家対策など新たな課題やニーズの変化が生じた場合でも、そのような施策に関わる社会経済情勢の変化に柔軟に対応する必要がある。

### 【その他の意見】

(ア) 歴史的景観を保存すべき地区に、無計画にマンションが建設されないよう、計画的に建築制限を行い、施策を実施する必要がある。

# 施策評価シート

## 基本目標

### 6 市民生活を支える 機能性の高い快適なまち

#### 1 施策名

#### 6-(2) 快適生活の基盤づくり

#### 2 施策の概要

- I 良質で快適な都市基盤施設の整備  
地震や風水害などに強く、すべての人が安全で安心して快適に生活できるよう、生活に密着した都市基盤施設などの効率的で効果的な整備などに努めます。
- II 環境や健康に配慮した生活基盤づくり  
省エネやリサイクルなどを通じて自然環境への負荷の低減を行うとともに、新エネルギーの導入や自然素材の活用など、環境、健康や景観にも配慮した生活の基盤づくりを行います。
- III 多様なニーズに対応した住環境の形成  
地域コミュニティの希薄化や高齢単身世帯の増加などに伴う、市民の多様なニーズに応じた住まいと住環境の形成等により、地域の活性化を図ります。
- IV 既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化  
既存の都市基盤施設について、市民ニーズの変化等を基にしたあり方を踏まえた上で、有効活用を図り、計画的な維持保全などによる施設の長寿命化や環境対策等を推進していきます。

#### 3 目標指標

##### (1) 実感指標

指標名	策定時の現況	26年度:実績(A)	26年度:目標(B)	達成率(A/B)	28年度:目標(C)	達成率(A/C)	主な関係局
①「生活道路や上下水道などの都市基盤施設の整備により、安全・快適な生活の基盤づくりが進んでいる」と感じる市民の割合	59.2%	60.4%	61.5%	98.2%	63.0%	95.9%	建設局 水道局

##### (2) 主な指標

指標名	策定時の現況	26年度:実績(A)	26年度:目標(B)	達成率(A/B)	28年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①主要な生活道路の整備延長	61.5km	68.9km	71.8km	96.0%	77.0km	89.5%	建設局
②住宅の耐震化率	85.1%	88.6%	88.2%	100.5%	90.0%	98.4%	建設局
③汚水処理人口普及率	90.2%	92.4%	92.2%	100.2%	93.6%	98.7%	水道局

#### 4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	26年度		27年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額
I 良質で快適な都市基盤施設の整備	25	14,146,448	26	14,379,808
II 環境や健康に配慮した生活基盤づくり	4	186,827	5	410,638
III 多様なニーズに対応した住環境の形成	9	517,955	10	556,622
IV 既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化	14	932,883	15	1,791,846
計	52	15,784,113	56	17,138,914

## 5 関係局による分析

## ■分析の類型（施策の達成度）

A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない

## 建設局（良質で快適な都市基盤施設の整備、環境や健康に配慮した生活基盤づくり、多様なニーズに対応した住環境の形成、既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化）

分析	理由
A 施策の達成度	<p>(ア)良質で快適な都市基盤施設の整備については、幹線市道の整備により、主な指標の「①主要な生活道路の整備延長」が概ね目標を達成した。また、老朽化した市営住宅について、市営住宅長寿命化計画に基づく計画的な建替やエレベーターの設置、段差解消などのバリアフリーに配慮した整備を行った。【関連事業1-1-1、1-2】</p> <p>(イ)環境や健康に配慮した生活基盤づくりについては、地域活性化住宅や既存集落活性化住宅を低層木造住宅とし、地域材(市内産材・県産材)の活用や雨水貯留タンクの設置など、環境、景観等にも配慮して整備を行った。【関連事業2-2-1～2】</p> <p>(ウ)多様なニーズに対応した住環境の形成については、市営住宅における子育て支援住宅の整備や、過疎化の進行した地域において地域活性化住宅や既存集落活性化住宅の建設を行うことで、少子高齢社会に対応した住環境の形成に努めた。また、個人住宅等に対する耐震化やリフォームへの補助を行うことで、子育て・高齢者世帯の安心な住まいづくりを支援するとともに、主な指標の「②住宅の耐震化率」の目標達成の一助となった。【関連事業3-1-1～3、3-2-1～2】</p> <p>(エ)既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化については、各施設の特徴を踏まえた長寿命化計画を作成し、効率的な維持保全等を実施することで、トータルコストの縮減と平準化が図られた。また、公共建築物における環境対策では、対象施設において設備機器の運転支援や環境対策技術導入に取り組み、電気使用量の削減を図った。【関連事業4-1-1～3、4-2-1・3、4-3-1】</p>

	考え方
今後の方向性	<p>(ア)良質で快適な都市基盤施設の整備については、今後も事業計画等に基づき効果的な幹線市道等の整備に努める。また、市営住宅についても引き続き計画的な建替に努めるとともに、建替に際しては、バリアフリー化及び周辺環境にも配慮した良質な住宅ストックの形成を図る。【関連事業1-1-1、1-2】</p> <p>(イ)環境や健康に配慮した生活基盤づくりについては、今後とも地域活性化住宅や既存集落活性化住宅において、地域材使用による木造住宅の建設や敷地内緑化などにより、環境や景観等に配慮した住環境の整備に努める。【関連事業2-2-1～2】</p> <p>(ウ)多様なニーズに対応した住環境の形成については、市営住宅において、子育て世帯への優遇措置や、子育てに配慮した住宅の整備に努めるとともに、地域活性化住宅の整備へ向けて、これまでの事業効果等の検証を行うほか、公共施設等総合管理計画等との整合性を図る。また、個人住宅等に対する耐震化等への補助や危険空き家の解体補助を行うことで、安心して快適な住まいづくりを支援する。【関連事業3-1-1～3、3-2-1～2】</p> <p>(エ)既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化については、公共施設等総合管理計画との整合性を図るとともに、定期的な点検、修繕、改善を行うことで、更なるライフサイクルコストの縮減を図る。また、環境対策については、引き続き、施設の新築・改修、機器更新に合わせて、運転支援や環境対策技術導入に取り組み、省エネルギー化を推進する。【関連事業4-1-1～3、4-2、4-3-1】</p>

## 5 関係局による分析

## 水道局（良質で快適な都市基盤施設の整備、環境や健康に配慮した生活基盤づくり、既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化）

	分析	理由
施策の達成度	A	<p>(ア)上下水道事業は、安全で良質な水の安定的供給や良好な水環境と快適な生活環境の確保のために努めており、上下水道とも対象区域において100%近く普及している。その結果「生活に密着した都市基盤が整備され、安全・快適な生活が出来ている」と感じる市民の割合については、概ね目標を達成していると考えている。</p> <p>(イ)施策については、老朽施設の更新をはじめとする上水道の整備、水道管路の耐震化など水道事業全般にわたり実施しており、予算規模についても適切に確保している。特に、安全対策としての鉛製給水管布設替については、平成27年度までに完了する。【関連事業1-1-4,7,8,10】</p> <p>(ウ)主な指標の「③汚水処理人口普及率」については、目標を達成している。市街化区域内については公共下水道の整備を、その他の区域については合併処理浄化槽の設置の促進などを進めることで、快適な生活環境の確保が図られており、予算規模についても適切に確保している。また、処理施設及び管路施設の長寿命化に取り組むことにより、施設のライフサイクルコストの最小化及び更新事業費の平準化が図られている。【関連事業1-1-11、4-2-2】</p>

	考え方
今後の方向性	<p>(ア)上下水道事業については、節水型機器の普及など水需要の減少傾向が続いており、核家族化による世帯構成員の減少もあって、収益の増は見込めないなど厳しい経営環境にある。当該事業は市民のライフラインであることから、目標に沿って、今後ともさらに次のような施策を進めていきたい。</p> <p>(イ)汚水処理人口普及率の目標達成に向け、公共下水道の整備とともに合併処理浄化槽の設置の促進などをさらに進めていく。また、水需要の減少を踏まえ、上下水道施設の統廃合など規模の適正化や、施設及び管路の長寿命化を図る。さらに、企業債残高の縮減を行うなど、経営基盤の強化を図る。</p>

## 6 行政評価市民委員会における評価・意見

### 【施策の達成度に対する評価】

(ア)良質で快適な都市基盤施設の整備については、主な指標①「主要な生活道路の整備延長」は概ね目標を達成しており、主な指標③「汚水処理人口普及率」も目標を達成していることから評価できる。

(イ)環境や健康に配慮した生活基盤づくりについては、地域活性化住宅や既存集落活性化住宅を地域の材料を使った木造住宅とし、雨水貯留タンクを設置して景観や環境に配慮した整備を行っており、評価できる。

(ウ)多様なニーズに対応した住環境の形成については、主な指標②「住宅の耐震化率」は目標値を達成しており、評価できる。また、個人住宅等に対する耐震化やリフォームへの補助、市営住宅における子育て支援住宅や地域活性化住宅や既存集落活性化住宅の建設をすすめており、評価できる。

(エ)既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化については、各施設の特性を踏まえた長寿命化計画を作成し、効率的な維持保全等を実施しており、評価できる。

(オ)実感指標によると、「生活道路や上下水道などの都市基盤施設の整備により、『安全・快適な生活の基盤づくりが進んでいる』と感じる市民の割合」は概ね目標を達成しており、評価できる。

### 【今後の方向性に対する意見】

(ア)上下水道については、ほぼ整備されているが、今後の需要の減少を見込んで、需給バランスを合理的にとる必要がある。また、快適な生活ができるよう、バリアフリーに配慮した住宅整備の充実を期待する。

(イ)子育て支援や過疎化進行地域の活性化などを目的とした住環境整備については、保育所や小中学校等の施設、サービスなど、周辺環境や既存の住民との関係なども、目標達成のための重要な要素になると思われることから、子育て世帯への配慮や他局との連携も含めて大きなビジョンを持って施策に取り組む必要がある。

(ウ)既存都市基盤施設の有効活用と長寿命化については、超高齢社会や人口減少、既存住宅等の老朽化などによって、多くの問題が生じることから、既存施設の有効活用や整理など、中長期的な視点で計画を立てるなど着実に進める必要がある。

# 施策評価シート

## 基本目標

### 6 市民生活を支える 機能性の高い快適なまち

## 1 施策名

### 6-(3) 市民活動を支える交通環境の充実

## 2 施策の概要

### I 総合的な広域交通ネットワークの形成

広域道路網や広域公共交通網の充実強化、陸・海・空を結ぶ交通結節拠点の機能強化など、本市と国内外との円滑な交流を支える総合的な広域交通ネットワークを形成します。

### II 快適で機能的な交通基盤の整備

全市的な視点からの計画的な幹線道路網の整備や交通需要に即した道路等の整備など、自動車交通の円滑化と各地域間のアクセス向上を図る、快適で機能的な交通基盤の整備を進めます。

### III 便利で効率的な公共交通体系の構築

各交通手段の適切な役割分担の下、結節機能の向上や公共交通不便地における交通手段の確保を図るとともに、公共交通のサービス水準のさらなる向上や効率的な事業運営の一層の推進を図るなど、誰もがどこでも自由に移動できる、利便性・効率性の高い持続可能な公共交通体系を構築します。

### IV 人と環境にやさしい交通環境の充実

歩行者・自転車を優先した安全・快適な交通施設の整備や車両等の低公害化・低燃費化の推進、環境に配慮した交通行動の促進など、人と環境にやさしい交通環境の充実を図ります。

## 3 目標指標

### (1) 実感指標

指標名	策定時の現況	26年度:実績(A)	26年度:目標(B)	達成率(A/B)	28年度:目標(C)	達成率(A/C)	主な関係局
①「道路や公共交通などの交通環境が充実している」と感じる市民の割合	57.5%	56.1%	59.0%	95.1%	60.0%	93.5%	企画財政局 建設局

### (2) 主な指標

指標名	策定時の現況	26年度:実績(A)	26年度:目標(B)	達成率(A/B)	28年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①都市計画道路整備率	83.0%	84.4%	85.0%	99.3%	86.0%	98.1%	建設局
②公共交通利用者数	67,979千人	67,487千人	68,315千人	98.8%	68,539千人	98.5%	企画財政局
③市交通事業経営健全化計画推進による目標効果額		1,914百万円	2,072百万円	92.4%	2,407百万円	79.5%	交通局

## 4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	26年度		27年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額
I 総合的な広域交通ネットワークの形成	7	264,247	7	294,493
II 快適で機能的な交通基盤の整備	8	4,473,950	8	8,427,460
III 便利で効率的な公共交通体系の構築	13	5,059,922	14	8,766,226
IV 人と環境にやさしい交通環境の充実	13	1,588,182	17	3,184,520
計	41	11,386,301	46	20,672,699



## 5 関係局による分析

## ■分析の種類（施策の達成度）

A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない

## 企画財政局（便利で効率的な公共交通体系の構築、人と環境にやさしい交通環境の充実）

	分析	理由
施策の達成度	B	<p>(ア)コミュニティバス等の運行については、平成18年度に選定した公共交通不便地域など12地域で実施しており、沿線地域における買物・通院等の日常生活に欠かせない交通手段として定着している。【関連事業3-2-1】</p> <p>(イ)交通施設のバリアフリー化については、鹿児島市新交通バリアフリー基本構想推進協議会において、新構想に位置づけられた事業等の進捗管理を行っており、概ね計画どおりに進捗している。【関連事業4-1-1】</p> <p>(ウ)環境に配慮した交通行動の促進については、鹿児島都市圏地球温暖化防止交通対策協議会を通じて、エコ通勤割引制度の利用促進に取り組んでおり、26年度末でのエコ通勤割引パス利用者数は2,413人（都市圏全体）となっている。【関連事業4-3-1】</p>

	考え方
今後の方向性	<p>(ア)コミュニティバス等については、運行を継続するとともに、利用者のニーズを把握した上で改善を図る。また、現在運行している地域以外の公共交通が不便と思われる地域の選定基準を定め、新たな対象地域における日常生活の交通手段の確保について取り組む。【関連事業3-2-1】</p> <p>(イ)交通施設のバリアフリー化については、引き続き、鹿児島市新交通バリアフリー基本構想推進協議会において、新構想に位置づけられた事業等の進捗管理を行い、新構想の一体的かつ計画的な推進を図りたい。【関連事業4-1-1】</p> <p>(ウ)環境に配慮した交通行動の促進については、エコ通勤割引制度のさらなる利用促進を図り、利用者増に努めていきたい。【関連事業4-3-1】</p>

## 5 関係局による分析

建設局（総合的な広域交通ネットワークの形成、快適で機能的な交通基盤の整備、便利で効率的な公共交通体系の構築、人と環境にやさしい交通環境の充実）

分析	理由
施策の達成度  <b>B</b>	<p>(ア)総合的な広域交通ネットワークの形成については、地域高規格幹線道路では、東西道路のうち、新武岡トンネルの開通による田上ICから建部ICまでの区間の暫定供用が開始し、国道では、平川道路が供用開始したほか、10号北バイパスの整備方針が示され、また、鹿児島港新港区では、耐震強化岸壁やフェリーターミナル等が一部供用開始されるなど、整備が進められている。【関連事業1-1-1～3、1-2】</p> <p>(イ)快適で機能的な交通基盤の整備については、幹線道路の計画的な整備に取り組んだ結果、都市計画道路整備率が26年度の目標を概ね達成したほか、交通事故が多発している道路等について、交差点の改良など交通安全施設の整備に取り組んだ。【関連事業2-1、2-2】</p> <p>(ウ)便利で効率的な公共交通体系の構築については、交通結節機能の強化に向け、鹿児島駅周辺において、都市拠点総合整備事業の実施スケジュールに基づき、市道一本町機線の測量設計などに取り組んでいる。また、谷山駅周辺の土地区画整理事業と谷山地区連続立体交差事業を一体的に進めており、いずれも工事概成に向け着実に整備を進めている。【関連事業3-1-1～3】</p> <p>(エ)人と環境にやさしい交通環境の充実については、自転車等の放置防止対策や、駐車場等管理運営事業により、放置禁止区域内における放置自転車等の台数が減少しているほか、自転車で走りやすいまちの実現に向け、自転車走行空間の整備を進めた。【関連事業4-1-4、4-3-2】</p>

考え方	
今後の方向性	<p>(ア)総合的な広域交通ネットワークの形成については、国・県に対する鹿児島東西・南北幹線道路や国道10号鹿児島北バイパス、鹿児島港新港区の整備促進などについて、継続的な要望活動を実施する。【関連事業1-1-1～3、1-2】</p> <p>(イ)快適で機能的な交通基盤の整備については、交通の円滑化を図るため、現在整備中の路線についても、全区間での供用開始に向け取り組んでいく。また、交通事故が多発している道路等の交差点改良や道路区画線等の整備も引き続き実施する。【関連事業2-1、2-2】</p> <p>(ウ)便利で効率的な公共交通体系の構築については、交通結節機能の強化に向け、鹿児島駅及び谷山駅周辺の整備を進めるとともに、谷山地区連続立体交差事業については、27年度末の高架切替に向けて取り組む。【関連事業3-1-1～3】</p> <p>(エ)人と環境にやさしい交通環境の充実については、自転車走行ネットワーク形成事業など、現在の取組を計画的に進めていくとともに、27年度は公共交通機関への利用転換を図るため、坂之上駅周辺への駐輪場及び自動車乗降場の整備等に取り組む。【関連事業4-1-4・9、4-3-2】</p>

## 5 関係局による分析

## 交通局（便利で効率的な公共交通体系の構築、人と環境にやさしい交通環境の充実）

分析	理由
施策の達成度 B	(ア)主な指標の「③市交通事業経営健全化計画推進による目標効果額」は、主に保有資産の売却不調等のため、目標値を達成できなかった。交通事業は、依然として厳しい経営状況が続いているが、当該計画に基づき増収対策や事業の効率化による経費削減などを積極的に取り組んでいる。【関連事業3-4-1】
	(イ)電車事業は、より良い運行管理や業務の効率化、お客様サービスの向上を図るため、庁舎、車両基地を移転整備したほか、超低床電車の導入や停留場上屋の整備などを実施し、公営の公共交通機関としての責任と役割を担ってきており、施策として概ね達成しているところである。【関連事業4-1-2・5・7・10・11】
	(ウ)バス事業は、バス施設移転に伴い、利用者ニーズに沿った効率的な運行をするために、運行経路やダイヤの変更を行っているところである。【関連事業3-3-1】 バス停の上屋整備を推進し、待合環境の向上に努めるとともに、高齢者をはじめ全ての利用者にやさしく、環境にやさしい低公害低床型バスを計画的に導入している。【関連事業4-1-6・12、4-2-1・2】

	考え方
今後の方向性	(ア)経営健全化計画に基づく取組については、各面から経費等の節減に努め、単年度収支の改善を目指すとともに、平成29年度以降の次期計画の策定に向けて、将来にわたり持続可能な方策の検討を行っていききたい。【関連事業3-4-1】 (イ)電車事業は、今後も、超低床電車の導入や停留場等の整備、また、市民に親しまれる交通局としてふれあい事業の実施、安全運行及び接客マナー向上のためのドライブレコーダの導入など、「安全性」、「速達性」、「快適性」、「定時性」、「大量輸送」のほか、お客様に信頼される電車事業として引き続き取り組んでいきたい。【関連事業4-1-2・5・7・10・11】 (ウ)バス事業は、乗客数の減少が続き厳しい状況にあるが、公共交通機関としての使命を果たすべく、効率的なダイヤを編成するとともに、低公害低床型バスの導入等を積極的に推進し、また、ドライブレコーダの整備による運転士の安全意識の向上を図るなど、安全で快適な交通環境の整備に努めていきたい。【関連事業4-1-6・12、4-2-1・2】

## 船舶局（安全・快適な交通施設の整備）

分析	理由
施策の達成度 A	(ア)平成27年4月に本市2隻目となる、環境にやさしく経済的でバリアフリーにも配慮した電気推進船第二桜島丸を就航させ、交通環境の充実を図ったところである。 前期実施計画の最終年度には、桜島港フェリー施設整備事業も終了する見込みであることから、目標は達成できると考えている。【関連事業4-2-3・13】

	考え方
今後の方向性	(ア)桜島フェリーターミナル及びその周辺施設を、2つの半島を結ぶフェリーの発着場としてだけでなく、路線バス・観光バスのターミナル、タクシー乗場・駐車場等を含む総合交通ターミナルとして統合整備し、鹿児島島の物流・交流の促進・発展を図るとともに、過疎化が進行する桜島の再開発・観光・地域交流の拠点施設として、また、桜島の噴火等の災害時の避難施設としての機能を持つ施設として整備を行って行く。 鹿児島港については、通常の維持管理を含めて、老朽化した箇所を今後も計画的に整備して行く。【関連事業4-2-3・13】

## 6 行政評価市民委員会における評価・意見

### 【施策の達成度に対する評価】

(ア)総合的な広域交通ネットワークの形成については、概ね目標どおり道路やフェリーターミナルの整備など進んでいるが、交通結節点の機能強化、いわゆる使いやすさについて、多面的に取り組む必要がある。

(イ)快適で機能的な交通基盤の整備については、主な指標①「都市計画道路整備率」は概ね目標を達成しており、評価できる。

(ウ)便利で効率的な公共交通体系の構築については、主な指標②「公共交通利用者数」は横ばいで推移しており、公共交通不便地におけるコミュニティバスについて、利用者を増加させるため、利便性を検討した運行が行われたほか、市交通局の移転に伴うダイヤ改正など一定の見直しが行われている。バス等の公共交通利用者は高齢者が多いことから、利用者の減少にあわせて、本数を減らすのではなく、本数を減らさずに、車両を小型化するなど利用に支障が生じないよう配慮が必要である。また、主な指標③「市交通事業経営健全化計画推進による目標効果額」は、目標値を下回っている。保有資産の売却不調が原因とのことであるが、経営の健全化が懸念される。

(エ)人と環境にやさしい交通環境の充実については、一定の成果が出ていると評価する。

(オ)実感指標によると、「『道路や公共交通などの交通環境が充実している』と感じる市民の割合」は、策定時の実績を下回り、目標値に達していないことから、公共交通路線の統廃合や定時性の確保などの問題について、さらに検討する必要がある。

### 【今後の方向性に対する意見】

(ア)交通体系全般については、集約型都市構造など都市計画やまちづくりと連携し、市民の利便性を考慮しつつ、災害対応を含めた公共交通体系・環境を充実する施策を進める必要がある。

(イ)交通結節機能を充実してほしい。また、ハード面の整備だけでなく、きめ細かなソフト的な対策についても検討する必要がある。

(ウ)少子高齢化や人口減少など将来的な人口構成を踏まえるとともに、観光都市としての交流人口増を見込んだ公共交通のあり方を鑑みて、市交通事業の経営の改善を図ってほしい。また、コミュニティバスの運行については、交通不便地における利便性と効率性を調整しながら、さらに改善する必要がある。

(エ)鹿児島市全体の交通意識の向上という視点で、安全意識についても、人と環境にやさしい交通行動に努める必要がある。

### 【その他の意見】

(ア)バス停止屋の新築、改築に当たっては、都市全体の景観の観点からデザインを設計していただきたい。また視覚障害者のバス乗降にも配慮する必要がある。